



David Shrigley, *Untitled*, 2019 ©David Shrigley, Courtesy of Stephen Friedman Gallery, London and Yumiko Chiba Associates, Tokyo

## デイヴィッド・シュリグリー 「CLARITY: IT IS VERY IMPORTANT」

**David Shrigley**  
**CLARITY: IT IS VERY IMPORTANT**

会期：2020年11月28日(土) - 2021年1月30日(土)  
\*2月27日(土) \*好評につき会期延長いたしました。  
(2020年12月27日(日) - 2021年1月11日(月祝)の期間、  
展覧会は開催しておりません。)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206  
営業時間：12:00-18:00 定休日：日、月、祝日  
\*オープニングレセプションは開催いたしません。

トークイベント：  
デイヴィッド・シュリグリー x 三輪健仁 (東京国立近代美術館主任研究員)  
\*日本語通訳あり

NADiff a/p/a/r/t オンライン配信 (zoom / ウェビナー)  
2020年12月12日(土) 20:00-21:30  
参加費：1,100円 以下よりお申し込みください。  
<http://www.nadiff-online.com/?pid=155311778>

\*展覧会初日ではありませんので、ご注意ください。

【ご来廊時のご協力につきまして】

- \*発熱、頭痛、咳、呼吸困難、倦怠感、嗅覚味覚異常など体調のすぐれないお客様はご来廊をお控えいただくようお願い致します。
- \*マスクのご着用をお願い致します。またご来廊時には入口にて手指のアルコール消毒と、非接触型体温計による検温にご協力いただいております。
- \*万が一関係者などから新型コロナウイルス感染症の発症があった場合、連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。
- \*大人数での来廊はなるべくお控えください。
- \*混雑が発生した場合は、入場制限をすることがございますのでご了承ください。

ギャラリーでの換気のため、常時ドアと窓を開放しております。スタッフは毎日必ず検温を含む健康チェックを行い、手洗い、消毒液による殺菌をこまめに行なっております。予防対策として、マスクを着用し、ご対応させていただく場合がございます。

**\*弊廊ウェブサイトを随時更新して参りますので、ご確認の上ご来廊くださいますよう、お願い申し上げます。**

2020年11月28日(土)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuでは、デイヴィッド・シュリグリーの個展「CLARITY: IT IS VERY IMPORTANT」を開催いたします。

デイヴィッド・シュリグリーの二回目となる個展を開催いたします。イギリス人美術家であるシュリグリーは、軽妙なドローイングや絵画、彫刻のほか、パブリックアート、多くの書籍の出版、雑誌上での風刺画の連載、ミュージックビデオやアニメーションの制作、グッズの販売などを通して、コンテンポラリーアートの世界を超えて広範なオーディエンスを獲得してきました。本年度には、ビジュアルアートへの貢献により、大英帝国勲章(OBE)を受賞しています。

シュリグリーの活動は、ブラックユーモアを孕んだ作品世界によって一貫しています。簡潔なイメージに組み合わせられたシンプルなフレーズは、可笑しみだけでなく、ときに悲哀をも感じさせます。シュリグリーのつくりだす脱力感のある作品は、従来のアートが備えていたシリアスさと一線を引くものでありながら、アートの可能性を拡張するものとも言えるでしょう。

シニカルなユーモアによって、芸術的な制度や規範にアイロニカルに介入しつつ、同時にポップカルチャーとアートを横断するシュリグリーの特異な活動は、世界を少しずつ脱臼させ、私たちの日常に変容をもたらします。多彩なアプローチでアートの拡張を図るシュリグリーの作品世界を、ぜひこの機会にご覧ください。



## ■ 関連情報（展覧会）

### 「Do Not Touch the Worms」

会期：2020年6月25日（木） - 12月30日（水）  
会場：コペンハーゲン・コンテンポラリー（コペンハーゲン、デンマーク）  
<https://copenhagencontemporary.org/en/david-shrigley/>

### 「Animals in Art」

会期：2020年5月26日（火） - 2021年1月10日（日）  
会場：アルケン近代美術館（イシヨイ、デンマーク）  
<https://uk.arken.dk/udstilling/animals-art/>

## ■ トークイベント

### 「デイヴィッド・シュリグリー x 三輪健仁（東京国立近代美術館主任研究員）」

※日本語通訳あり  
開催方法：NADiff a/p/a/r/t オンライン配信（zoom / ウェビナー）  
開催日時：2020年12月12日（土）20:00-21:30  
参加費：1,100円（税込）  
以下よりお申し込み下さい。  
<http://www.nadiff-online.com/?pid=155311778>

## 三輪 健仁

東京国立近代美術館主任研究員、立教大学非常勤講師。主な企画（共同キュレーション含む）に「ゴードン・マッタ＝クラーク展」（2018年）、「Re: play 1972/2015—『映像表現 '72』展、再演」（2015年）、「14 のタペ」（2012年）、「パウル・クレー展—おわらないアトリエ」（2011年）、「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」（2009年）など（いずれも東京国立近代美術館）。最近の執筆に「無名の顔—辰野登恵子の抽象について」『辰野登恵子 ON PAPERS A Retrospective 1969-2012』（青幻舎、2018年）、「ノンサイト—デス・ヴァレー」『ロバート・スミッソンの作品一覧 | 「プラスチック展」（1965年）から「ノンサイト展」（1969年）まで』（東京国立近代美術館、2017年）、「David Shrigley: Really Good」（ユミコチバアソシエイツ、2017年）など。

## ■ グッズ販売

NADiff a/p/a/r/t では、今夏にリリースしたシュリグリーの NADiff オリジナルグッズの第一弾に続き、この12月には第二弾の最新グッズのリリースを行います。加えて、シュリグリーの人気のプロダクトを結集させた POP UP STORE 「Third Drawer Down X David Shrigley General Store」も並行開催、店内にはシュリグリーのユニークなプロダクトが所狭しと展開します。

詳細は下記までお問い合わせ下さい。

NADiff a/p/a/r/t  
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-18-4 NADiff A/P/A/R/T 1F  
TEL:03-3446-4977  
<http://www.nadiff.com/?p=21798>



## ■アーティストプロフィール

デイヴィッド・シュリグリー (David Shrigley)  
1968 イギリス、マックルズフィールド (イングランド) 生まれ  
1988-91 グラスゴー・スクール・オブ・アート (スコットランド) Fine Art (学士)  
2020 大英帝国勲章受賞、将校(OBE)に叙任  
ブライトン (イングランド) に在住

## &lt;主な個展&gt;

2020 *Fond Memories of Giant Bug*, Jiri Svestka Gallery (プラハ、チェコ共和国)  
2019 *Kindness: Prints & Drawings by David Shrigley*, Newstead Abbey Historic House & Gardens (ノッティンガム、イギリス)  
*Do it (do not do it)*, Museo de arte Carrillo Gil (メキシコシティ、メキシコ)  
*David Shrigley: To Be of Use*, Art Omi (ゲント、ニューヨーク、アメリカ)  
*Exhibition of Inflatable Swan Things and Other Things*, Galleri Nicolai Wallner (コペンハーゲン、デンマーク)  
*Fluff War*, Anton Kern Gallery (ニューヨーク、アメリカ)  
*David Shrigley, Two Rooms* (オークランド、ニュージーランド)  
2018-19 *Exhibition of Inflatable Swan Things*, Spritmuseum (ストックホルム、スウェーデン)  
*David Shrigley, Sketch* (ロンドン、イギリス)  
2018 *David Shrigley: Life Model II*, Fabrica (ブライトン、イギリス)  
*David Shrigley: Laughterhouse*, Deste Foundation Project Space (Hydra、アテネ、ギリシャ)  
*Lose Your Mind*, Power Station of Art & Design (上海、中国)  
2017 *New Drawings*, ユミコチバアソシエイツ (東京)  
Skip Gallery (ロンドン、イギリス)  
Hall Art Foundation (バーモント州レディング、アメリカ)  
*Problem Guitars*, Anton Kern Gallery (ニューヨーク、アメリカ)  
2016-17 *Lose Your Mind* ブリティッシュ・カウンシル (グアダハラ、メキシコ) ; MAC (サンチャゴ、チリ) 、Storage by Hyundai Card (ソウル、韓国) 、水戸美術館 (茨城) に巡回  
2016-18 *Really Good*, The Fourth Plinth, Trafalgar Square (ロンドン、イギリス)  
2016 *Drawings and Paintings*, Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
*Colourful Works on Paper*, Galleri Nicolai Wallner (コペンハーゲン、デンマーク)  
*Song For The Rat*, BQ (ベルリン、ドイツ)  
*Prix Canson 2016*, Drawing Center (ニューヨーク、アメリカ)  
2015 Anton Kern Gallery (ニューヨーク、アメリカ)  
2014-15 *David Shrigley: Life and Life Drawing*, ヴィクトリア国立美術館 (メルボルン、オーストラリア)  
2014-16 *David Shrigley at Sketch*, Sketch (ロンドン、イギリス)  
2014 *Drawing*, Pinakothek der Moderne (ミュンヘン、ドイツ)  
2013 *Signs*, Anton Kern Gallery (ニューヨーク、アメリカ)  
Turner Prize (ロンドンテリー、イギリス)  
2012 *Arms Fayre*, Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
*Brain Activity*, Hayward Gallery (ロンドン、イギリス) ; Yerba Buena Centre for the Arts (サンフランシスコ、アメリカ) に巡回  
*Beginning, Middle and End* コペンハーゲン国立美術館 (コペンハーゲン、デンマーク)  
2011 *Animate*, トゥルク市立美術館 (フィンランド)  
Yvon Lambert (パリ、フランス)  
2010 M Museum (ルーバン、ベルギー)  
2009 *New Powers*, Kunsthalle Mainz (マインツ、ドイツ)  
*Fumetto*, Kunstmuseum (ルツェルン、スイス)  
2008 *David Shrigley, Monotypien*, ルートヴィヒ美術館 (ケルン、ドイツ)  
BALTIC Centre for Contemporary Art (ゲーツヘッド、イギリス)  
*Jonathan Monk & David Shrigley Corroborative Paintings*, Galeria Estrany De La Mota (バルセロナ、スペイン)  
BAWAG Foundation (ウィーン、オーストリア)  
2007 Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
*To the Wall: David Shrigley with Lily Van der Stokker*, アスペン美術館 (アスペン、アメリカ)  
2006 Yvon Lambert (パリ、フランス)  
2005 *Photographs With Text On Them*, BQ Galerie (ケルン、ドイツ)  
2004 Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
Yvon Lambert (パリ、フランス)  
2003 Kunsthaus (チューリッヒ、スイス)  
Billboard Commission, Gloucester Road Underground Station (ロンドン、イギリス)  
2002 Camden Arts Centre (ロンドン、イギリス) ; Mappin Gallery (シェフィールド、イギリス) , FRAC Bretagne (レーヌ、フランス) に巡回  
*Musée d'Art Moderne et Contemporain* (ジュネーヴ、スイス)  
UCLA Hammer Museum (ロサンゼルス、アメリカ)  
2001 CCS Museum, Bard College (ニューヨーク、アメリカ)  
1999 Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
1998 Yvon Lambert (パリ、フランス)



- 1997 CCA (グラスゴー、イギリス)  
Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
Photographers' Gallery (ロンドン、イギリス)
- 1996 Catalyst Arts (ベルファスト、イギリス)  
The Contents of the Gap..., Luxus Cont.e. V (グラスゴー、イギリス)  
The Contents of the Gap..., Luxus Cont.e. V (ベルリン、ドイツ)
- 1995 Map of the Sewer, Transmission Gallery (グラスゴー、イギリス)

## <主なグループ展>

- 2020 「高松次郎 / デイヴィッド・シュリグリー “レンガと脚立とネオン”」 ユミコチバアソシエイツ (東京)  
「デイヴィッド・シュリグリー / 金氏徹平」 ユミコチバアソシエイツ (東京)  
State of the Arts, Bundeskunsthalle (ボン、ドイツ)
- 2019-20 Lines from Scotland, St Andrews Museum (ファイフ、スコットランド、イギリス) ; Dunfermlines Carnegie Library & Galleries (ダンフェームリン、スコットランド、イギリス) に巡回  
Drawn World: Drawings from Menzel to Warhol, Galerie Ludorff (デュッセルドルフ、ドイツ)  
Playmode, MAAT (リスボン、ポルトガル)  
Stance & Fall: A Wavering World, Marta Herford (ヘルフォルト、ドイツ)
- 2019 Dog Show, CGP London: The Gallery & Dilston Grove (ロンドン、イギリス)  
There'll Never be a Door You're Inside: Works from the Coleção Teixeira de Freitas, Santander Art Gallery (マドリード、スペイン)  
The Lie of the Land, MK Gallery (ミルトン・キーンズ、イギリス)  
The Stage is Yours, Museum of Contemporary Art KIASMA/The Finnish National Gallery (ヘルシンキ、フィンランド)
- 2018 Summer Exhibition, Royal Academy of Arts (ロンドン、イギリス)  
Here & Now, Peter Harrington Gallery (ロンドン、イギリス)  
TYPE, Hang-Up Gallery (ロンドン、イギリス)  
Collaborationism, Peter Harrington Gallery (ロンドン、イギリス)  
BRIT ART, Lawrence Alkin Gallery (ロンドン、イギリス)  
Sweats & Tears, Saasfee Pavilion (ベルリン、ドイツ)  
And I Will Take You To Paradise, Kunstmuseet Kube (オーレスン、ノルウェー)
- 2017 Folkstone Triennial (フォークストン、イギリス)
- 2016 Takashi Murakami's Superflat Collection, Yokohama Museum of Art (神奈川)
- 2015 Drawing Now: 2015, The Albertina (ウィーン、オーストリア)
- 2014-15 「プライベート・ユートピア ここだけの場所 -ブリティッシュ・カウンスル・コレクションに見る英国美術の現在-」 東京ステーションギャラリー (東京) ; 伊丹市立美術館 (兵庫) 、高知県立美術館 (高知) 、岡山県立美術館 (岡山) に巡回
- 2014 Study from the Human Body, Stephen Friedman Gallery (ロンドン、イギリス)  
Generation, 25 Years of Contemporary Art in Scotland, スコットランド国立美術館 (エディンバラ、イギリス)
- 2013 Fourth Plinth Commission, The Crypt, St Martin-in-the-Fields (ロンドン、イギリス)  
Homelands, ブリティッシュ・カウンスル巡回展 (Latika Gupta によるキュレーション) ; テリ、コルカタ、ムンバイ、ベンガルール (インド) に巡回
- 2012 A Parliament of Lines, Edinburgh City Art Centre (エディンバラ、イギリス)  
Musique Plastique, agnès b. Galerie Boutique (ニューヨーク、アメリカ)
- 2011 Ron Arad's Curtain Call, The Roundhouse (ロンドン、イギリス) ; Israel Museum (イェルサレム、イスラエル) に巡回  
The Sculpture Show, スコットランド国立近代美術館 (エディンバラ、イギリス)
- 2010 Rude Britannia, テートブリテン (ロンドン、イギリス)
- 2009 Than a T-shirt, Bielefelder Kunstverein (ビーレフェルト、ドイツ)  
Sonic Youth etc.: Sensational Fix, Kunsthalle (デュッセルドルフ、ドイツ)
- 2008 Life on Mars - 55th Carnegie International (ダグラス・フォークルによるキュレーション) 、カーネギー美術館 (ピッツバーグ、アメリカ)  
Laughing in a Foreign Language, Hayward Gallery (ロンドン、イギリス)  
Order, Desire, Light, アイルランド現代美術館 (ダブリン、アイルランド)
- 2007 Learn to Read, Level 2 Gallery, テートモダン (ロンドン、イギリス)
- 2006 Under Gods Hammer: William Blake versus David Shrigley, 西オーストラリア州立美術館 (パース、オーストラリア)  
Dear Friends, D.o.m.a.i.n.e. d.e. K.e.r.g.u.é.h.n.n.e.c, Centre d'art contemporain (ビニャン、フランス)  
The Compulsive Line: Etching 1900 to Now, The Museum of Modern Art (ニューヨーク、アメリカ)  
Defamation of Character, MoMA PS1 (ニューヨーク、アメリカ)  
Six Feet Under, ヘルン美術館 (ヘルン、スイス)
- 2005 Emotion Pictures, アントワープ現代美術館 (アントワープ、ベルギー)
- 2004 State of Play, Serpentine Gallery (ロンドン、イギリス)  
Emotion Eins, フランクフルト美術館 (フランクフルト、ドイツ)  
Needful Things: Recent Multiples, ザ・クリーブランド・ミュージアム・オブ・アート (オハイオ、アメリカ)
- 2003 Love Over Gold, Gallery of Modern Art (グラスゴー、イギリス)  
Splat, Boom, Pow! The Influence of Cartoons in Contemporary Art, コンテンポラリー・アーツ・ミュージアム・ヒューストン (ヒューストン、アメリカ) ; ポストン現代美術館 (ポストン、アメリカ) 、ウェクスナー芸術センター (コロンバス、アメリカ)
- 2002 The Galleries Show, ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ (ロンドン、イギリス)  
Gags and Slapstick in Contemporary Art, サンフランシスコ・アート・インスティテュート (サンフランシスコ、アメリカ)



	<i>Jokes</i> , ジュネーヴ近現代美術館 (ジュネーヴ、スイス)
	<i>Open Country</i> , Contemporary Scottish Artists, Le Musée cantonal des Beaux-Arts de Lausanne (スイス、ローザンヌ)
2001	<i>Televisions</i> , Kunsthalles (ウィーン、オーストリア)
2000	<i>Beck's Futures</i> , ICA (ロンドン、イギリス) ; <i>Cornerhouse</i> (マンチェスター、イギリス)、グラスゴー現代美術センター (グラスゴー、イギリス) に巡回
1999	<i>Love Bites</i> , Ikon Gallery (パーミンガム、イギリス) ; <i>Cornerhouse</i> (マンチェスター、イギリス) に巡回
	<i>Zac 99</i> , パリ市立近代美術館 (パリ、フランス)
1998	<i>Young Scene</i> , Secession (ウィーン、オーストリア)
	<i>Habitat</i> , 現代写真センター (メルボルン、オーストラリア)
1997	<i>Blueprint</i> , de Appel Foundation (アムステルダム、オランダ)
	<i>Caldas Biennale</i> , Caldas da Rainha (カルダス・ダ・ライニャ、ポルトガル)
1996	<i>The Unbelievable Truth</i> , Stedelijk Museum Bureau (アムステルダム、オランダ) ; <i>Tramway</i> (グラスゴー、イギリス)
	<i>White Hysteria</i> , Contemporary Art Centre of South Australia (メルボルン、オーストラリア)
1994	<i>New Art in Scotland</i> , 現代美術センター (グラスゴー、イギリス)

### <主なコミッション・アワード>

2016	<i>Memorial</i> , Doris C. Freedman Plaza (ニューヨーク、アメリカ)
	<i>Really Good</i> , Fourth Plinth Commission, トラファルガー広場 (ロンドン、イギリス)
2013	2013年ターナー賞にノミネート (ロンドン、イギリス)
	Shortlisted for the Fourth Plinth Commission, トラファルガー広場 (ロンドン、イギリス)
2011	High Line Art (commissioned billboard) (ニューヨーク、アメリカ)

### <パブリックコレクション>

アルドリッジ現代美術館 (コネチカット州、アメリカ)  
シカゴ美術館 (イリノイ州、アメリカ)  
アーツカウンシル・コレクション (ロンドン、イギリス)  
ブリティッシュ・カウンシル (ロンドン、イギリス)  
カートライト・ホール・アートギャラリー (ブラッドフォード、イギリス)  
バード大学キュレーター研究センター (ニューヨーク州、アメリカ)  
ニューヨーク近代美術館 (ニューヨーク、アメリカ)  
ルートヴィヒ美術館 (ケルン、ドイツ)  
ピナコテーク・デア・モデルネ (ミュンヘン、ドイツ)  
スコットランド国立近代美術館 (エジンバラ、イギリス)  
コペンハーゲン国立美術館 (コペンハーゲン、デンマーク)  
テート (ロンドン、イギリス)  
ティッセン・ボルネミッサ現代美術財団 (ウィーン、オーストリア)